正風

俳諧栗蔭集

911.3
八
天

俳諧栗蒔

[illegible]

東都赤星高識

栗蒔集序

九渕齋冥々陸粤人也好俳諧為斯道
巨師其言言俳諧雖僅々一十七言根於
心思發於言辭使人能喜能愁能怒能笑
至于感々極于鬼神格木石動正変々
調元開乎時世風俗々妍蚩人思有邪思
無正言余為此選正言々出乎無邪々極

九淵齋眞之陸粤人也好倡諧道斯道
巨師其言之俳諧雖僅之一十七言根於
心思發於之辭使人能喜能愁能怒能笑
至之感之極去鬼神格木石動正愛之
調元開平時世風俗之妍蚩人思有邪思
無正言余爲此選正言之出乎無邪之極

其業輯爲一編揭斯道高標欲以脫出
俗流媚世悅人之畢套世舉雖小可不
無補於昇平敎化之萬一哉吾同之有感
生于壹九年前東遊之日過覩陰粵名山
吾田多良去山勢屹然高聳乎雲外四
山殘雪春浪皆消盡獨吾田多良業間
有餘白雪形如一浮岡偃立播種粱粟

者於青甸中土人認之爲農期名曰播
粱僧又字曰雪法師冥冥居与此山相
近仍爲斯集名蓋寓其調節之高秀
與選擇之精粹兼取存清態於諸
山消雪之後而特立不滅沒焉抑斯
集一出高人以當鼓吹俗耳以爲針砭
爾冥冥不遠千里媒星生來實疑

塾求余題言因書此為序

享和改元秋九月望前三日

北山山本信有撰并書

九測あるあるをはらて御付社
集撰ふるふ御集の所をて生ふ
集を記載てやと也ふ和るを可
石河の系社のとかの系物後出
名をすふ和いまを理屈を生系
ふるあ人をいまあ社ことよこ生ふ
あるあ社ふ生ふ生ふ生ふ名を

むとおもひて彼一軍荷八色の菓
子をいとまをこひたちをはりぬるの
ち(ちかの)ものもとめてこれをもたせ
軍ちらせはまをいと古代めをこと
ばをもおもひ興のあるをはちら
軍荷乗とおぼしてをのをの向懐を
もちまゐたちまかりかへりぬ

御代の祥久二年春の発句を
題にして八束植ゑ時ぞ抽ぬ
白しるし山菅は宮の猶擅ぶ
玉のひかりをは月人雲ぶ婦快手と
鼻もちをめ学者婦くいぶ
たる形雲をもしはちはてよ唯ちとや
さかしき思ひちをとをとやら

何とやらかゝりやうもなきこゝろ
ばせなりし

享和元辛酉仲夏

親流亭秋長記

爰に因みなる大和撫子萬葉集よりあり今
をかしいまゝに題をまきらせかゝせま
ゝ久しもかゝることなり　大巳貴神出雲の
國をまもりてこゝに國ぶりの風をこ
ゝろみ給ひ種ふ樹をこゝに植給ひ
樹神のおんをこゝに南方をかゝよりて次日高
市重姫神何をこゝに祀給ひ

みなもとはうりもこけ爺蜂蛭のはゝのこに紛
きしく形手形年しあるこは路紛まれ
其もて貌象のことなこ造りたまる
気理草残し母業まれ入道と傍なる
其より守なりしてこゝなるよ人てもあ
たゝ母に角もある姓まで難定也此山なる四
つなる時々季節月清のまこゝろ望田足

まなや姥よみて更ふして六月なれの真
高なる竹の子氷の解き子菊葉子たら紛
ことも雑をまれる發書法律おほん神の
きらつ禄よ一毋あるなり毋紳

九洲斎 写く

一巻平塚縫殿之丞為ふ君ち人の句を加
へりけまとこそ臭め蘭世子ゆくさまるハおき
表ふ文ハ〳〵こそ裏よ高浅舎たる句
と峯勢蓬義の作きあきねく人日よ
親矣さ発そ傳きたる

一近代世を名たる新表ふを更ふて君ふ
彷まさる人〳〵ハ今世子異子花と

一抜まう籬の菊も雨の降むハ水ふ名ハ
ハ〳〵の宝香ハつ〳〵宝言子吾ハ笑猶
と水まるを盛つ〳〵を勇俳子も〳〵り
弟ハわ〳〵ハ〳〵ふ発をハ〳〵

一世子ハ名ふ名ふ〳〵ふ宝人品のなつて
多発と山河ハ子倍て文の面ハも
〳〵ふ礼を句とも思ふあふふハ俳
集子出ふる作を礼てのを俳句ハ

あるたつ〜事なハたゝふきぬ又西国へ
ゆくとて〜て西とはゝまの田社の人〜
ものゝ〜たゝまて
一 白ゝ芝茂吟て駿逸とゝゝ戈野孔
を作者ゝ之ゝ也ゝ雅ゝ恐まあるこハ
白ゝゝ行ゝゝ野ゝゝ雅ゝ摂ゝの
拙きゝたゝまゝ
一 いゝ屋ゝゝゝ大ゝ代のゝゝゝいゝく

〜芝ゝ流〜前ゝゝ西ゝゝ雄風起ゝ英
雄風と為て〜ゝ什ゝ唱ゝ東ゝゝ集ゝ
一ゝ代ゝ摂ゝゝゝゝゝゝ月ゝゝゝゝ
拙ゝゝゝゝゝゝゝ月ゝゝ月ゝゝ
理て禽息ゝ親ゝゝゝゝゝ四ゝ
ゝ月ゝゝ悦ゝゝゝ田社の人〜ゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

数の殿に於ける志の八あまを竊に
古人を聊るとなく嘆歎を見る
人わうのもとなく也

同 冥々後

栗谷詩集巻之一

謝諧五十韻

豊とをとをとを也雲々雪々雪々冥々
山々まん時代の朝々秋夫
鏡賣軒と大々也々萬象
藤々仏はと剣市
ち度をつの小格浪の市泉之

古さ茶釜の客掛布月　君石
雉子も也ろれきく流の草結ひよ　梅子
地ふるて大豆の萩よ白らる　実え
いまもしもの鬼き雀のり見印飛　木市
水こそ流るを違る行宮　毛蝕
花の市よ鄙のふ座敷に有わく　几与
菜摘に繕ふる生うたまる　蘭十
弦清の白乃目印くゆくまる　楠帆

姥ちうか菊そうの内涎仕けりる　喋ゐ
歳まもしけり見らずきる哀らまつり　五俵
てはみかりの霄花咲风　是良
猿音の花ちらし灯ぞ下ほし　包武
手もよしそく眼をもて見　冥
ち卿の六しけ幕よ清さ　先
山下水いわ燕橋とれ　家
月の秋冊梢そのうち山川　〇

粧しゆかしき佳遊よる 文
風すけふ華の世の消えやらぬ 右
枕ありし遊女の峰流の花代ある 子
宿下りぬ娘の風情もとつかへ 実
描けく旅の遊夜の栽しみ 布
稀く窮上坪とかふる竹の名 姫
岸の水すり 鯵 鯨の 腸 寄
手掛しつゝ名ある湯気とにちてき 十

噴飯なかつくる 腕首とられし 的
猫舌の代まで海苔よけきを汁 函
毒蕈ちんと形容う猿楽よ入 情
やくの月夜一家を寝かる起 良
おもの作りし業よはまる 哉
灯の端よみ蛙蝶あしかるのうらく 須
持ほこる猿憎ふき 先
はしはの土前とつ寄流底と遊し 家

見る程の人に見る色となる　女
引方ねまて雁の後まくら　之
菊まて野に思ひや一母まゐる　石
寝まそれ下行乃敷絵まいる　子
くしゆり畑布所のとほりてや　実
出てら朱里疵て年まへしその足く　布
但とけるし涼の情使　琟
花月の拍子の母了標緑く　令

芝々下の風吹ろもみ栄　十
住杜鹿乃跡の行まれたま水　川
子とも打かるる奈良の跡ともら　国
道を歩り閑まで櫻さ見花の雲　武
萬々日の夢乃係を陽炎　良

初日ゝけ山茶花に貴仲子かし　洒堂　露秀

蓮茎のつゝるゝ山茶花　信孔　蓮面

蓮茎ゝ母の寝ゝる夜を美て　二本松　と人

いゝゝ枯ゝ胸ゝゝゝゝ花の春　秋史

猿律入形ゝ

初ゝゝ我花ゝゝ何ゝ修子　栗陣

ぬゝゝゝゝ寒ゝ花のゝ　五郎　宣厚　宋美

[illegible]部

立春　[illegible]卅

[illegible]　内子

[illegible]　大坂　八重

[illegible]　京　丈太

[illegible]　冥

[illegible]　宇治　方外

[illegible]卅　清書　露秀

[illegible]　信孔　莊雨

[illegible]　二条松　[illegible]人

[illegible]　秋史

[illegible]

[illegible]　栗陣

[illegible]　五部　宣厚

[illegible]　宋義

[illegible] 三河は　内藤
[illegible] 殿の郡　胡友
大宮司の所[illegible]　[illegible]宮　二平松　西河
[illegible]　[illegible]　[illegible]郡　伊勢　丘高
初[illegible]　[illegible]　甲斐　[illegible]
[illegible]　[illegible]　相良　平牛
[illegible]　[illegible]　陸奥　[illegible]
萬葉の[illegible]　[illegible]

三河の[illegible]人[illegible]や　菜大根　武尼　[illegible]村
[illegible]川の[illegible]村　[illegible]
北山や枝[illegible]　[illegible]　田村　芭丈
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

人日　[illegible]

[illegible]の[illegible]　武尼　菜北

雪のしたの草のはるかに萌出るを　仙更
いつの春とかはるまでかくれなく　隆秀　子容
ひのもとにかをるさくらの花の色　羽冥
春の限りの氷うすく消れ行　萬象
まきのうちにとけそめにけり　信元　帰枝
春なれとくもりの中にかすみ　柳荘
霞ゆるたまのうちにはしめて　古堂
そこに中まきの市のたつ郷　仙造

春風

春の風の吹つるにはなとまとのうち　尾元　羅陳
蝶はいはれぬ物思の句れ　武別　夫山
さきのわかれをなる人の限はなる　同　長翠
延年のうちにまきの花を見　上毛　砂上
いとけなくも蓮ちまきかくしよ　元雪
大義の太鼓のうちのうの　高行　素條

春風

[illegible] 京 石池

小笹[illegible] 洛香 長芭

相の[illegible] 南枝

[illegible] 梅

[illegible] 極

[illegible] 仙竜 文々

[illegible] 東都 柳更

[illegible] 頃かり 汲古

[illegible] 仁井可 文雄

[illegible] 洛吉 大閑

[illegible] 小菊

除夜

[illegible] 秋更

蝙蝠のとまり損し金屏風　岸香 貞中

老らくの筆と口とは懶し　冥こ

亀のこは時をもしの浪のうき枕

まつ雪

霜

あられ雪夜の末織よかしこあられ　上毛 鯢思

古れ色の月のつまさきこぼれ雲　小宮 乙佃

春雨

春雨し折くる芦や鹿の角　栗氣

さくらもののいやめの越小浪ぬ　加賀 鹿古

少く桃のしま春しとくるの春　伊勢 月叟

春雨ゆたく刈の艸は湖のおつ　明石 之友

春しよ気はうり帰さしの春の雨　尾張 加門女

舟こしの後出着くりまとの春　信巻 芳志

すゞしくてやゝ心ぼそしきの雨　冥々

てるゝるのかゝる小勝の顔力哉　一圃

まち雨の夜とも待しひら草の風　奥壺

海苔たゞし一粒つゝむ春の雨　渋香　萬草

蜂の巣やたゝるゝ花を扱の上　須加川　等里

飼蚕

了三月桐了風のきりゝく四歳り采　信州　如毛

小径其のちゞみも仕切蔀柳　也條

霧

うかゝ行し思ふの乱れしまゝ庵　大坂　長高

霧了もみちる気色も岩の松　武州　柳暇友

ゆうぐれも私くも行儀く霧かな　播州　那衆

夕霧はうらこはりくまろ処　但馬　雄陶

鰡打ぎる夕飯ころとかさ紅葉　渋香　露滴

梅園　是良

梅　五月雨　芳梅

雨ふるとかつ雲の野の竹の名残　京都　午心

明ぬ夜の篠ちるあくるあめの花　六柿

夏腐ちてこしとかたしに月の梅　京原

うめと形きまるほのぼのよりうら　秋田　也明

梅子

梅の梅ふるいくもれ折とり栗

ちる梅より出れ梅多かり窓うら　秋史

うめ青もおかるうらのおきい　三河　敬上

松風のいうとたれ庵の梅　竹也

秋の梅ちる空也不雪山　こ陝

所け梅と庵ら梅の宋ル　文雄

梅う香や水を籠地と青也　小野寺　杉下

四世の孫と子ら赤入ら　百地

竹の根の毒ふる白し宵月夜　大坂　芙蓉

[illegible]　石兮

梅ちりぬ過し夜雨の降上り　高崎

牧の[illegible]梅ひとすじと山猫哉　信濃　雪像

山[illegible]の[illegible]二日月　英嶺

さら[illegible]梅ひとすじ[illegible]哉　雄笑

[illegible]　乃政

山吉の花ひとつの[illegible]　上毛　利字

朝風や梅ちる[illegible]の紙けしん　雅文　中居

[illegible]　[illegible]

[illegible]梅ひとすじ[illegible]　二条松　六一

梅ひとすじ[illegible]　頃分門　[illegible]

[illegible]　秋文　菊有

梅ひとすじ[illegible]打音のまぎれ　武州　燕市

[illegible]公田[illegible]小ヶ縣、　[illegible]

[illegible]上[illegible]懶[illegible]の花　[illegible]

ゆくすゑは月かさねの梅の花　備中　文里

うらやましきのこずえやうめ折　敦賀　里川

大うちきの月夜にいうぐひの巻　甲州　文賀

小ぶとうやまのうみにたつら　南部　玉之

人のうしろ梅のかをりかな　白石　まき雨

たうとと正月二月うぐひす　京　宗雅

夕梅やかりがねのこる　岩城　赤白

梅こ夜のねしたる窓梅式　南部　一仲

夜の梅ゆくすゑの雁の数　法雪　晋成

雪ふるまうかはれてもの蔵　冬春　梅子

梅うまやと夜屋ぬるの梅　泉有

うめ折ふる宮也のやうしゆ　冥

漬菜おかず集

梅やと夢ゆくすゑ狩しゆ　梅子

紅雪のまやと小仙子と梅　芋全

芋梅やと芋ゆくすゑ　芋全

接骨よ柳よりさき遠し梅の花　ニえこ　井田

京中の梅にみてる一両庵の花　壽乃　頼長

鶯

鶯の中宿ふてまてしかまた寒　菊伊る　祐昌

うらそむきの江ほりおもて白武　伊勢　坊辰

鳴き起鳥年けふしもさまの暮　池田　仏坊

黄鳥の擬つゐぞる山枝に　郷　乞人

うくひすやとのたてはみちおもれは　二本松　寓也

黄鳥やつまゐの隣に鳴る朝　柳荘

鶯もし代に借りる筆始　後加　希之

うくひすやとまるみちこころのまま負武　よしの　一魚

鶯や乱尾よりくるまで鳴ならう　猪又　田符

宿く此国の風につく柳にすく哉　信濃　丈芝

鳴た起ちゅ小路をさらへ人に旅をちる　京枝　不秋

うくひすや此まゝもちなん梅の中は啼ても初音かな　桂川　文魚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

猫恋

[illegible]

[illegible]

涅槃会

[illegible]

雉子　附　燕　發句

雉子の雄のむつましけに花咲けり　露沾
閨の戸によき燕しのかれ雉子か　桃夫
雉子の声高き松の夕延雨　上毛　鴻舟
雉子の口氏のつゝき道に分れ　信夫　市席
月まちて成あふもうきの雁　佳列　仙元
大かたは啼てのまひして雨の声　麻守

所願て淋しの田をもちりけん　加賀　之京
螺貝にまかせて雉の子銅かな　播州　何瓢
夕風にあまるつゝき乱はしめ　東居
ゆる燕芽をゆうていひ　宇佐　美荃
行くへる月ちて燕すか桃のこと　東郊　宗来
ちる又の書かへと雉子無益代　尚香　貞中
飛翼の中すかしけり氷海雀　文雄
浴しくもしまへの水や雉の腔　仁井丁　顧仙

[illegible]　小野[illegible]　旭[illegible]

[illegible]　百年

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

蝶

[illegible]　惟[illegible]

[illegible]　東郊　[illegible]

[illegible]　かなえ　佛仙

湖[illegible]十丁[illegible]胡蝶の[illegible]　[illegible]中　[illegible]

[illegible]　[illegible]

月　曉月[illegible]夜

葉[illegible]一朝[illegible]月　東郊　[illegible]

月[illegible]　樓[illegible]　[illegible]

いつの世のちいさき文枝よ其の日
古郷やまの芽ぶきにさく桜
くれてゆく春の日 上元 清伯
おろかなる月大きなる人の海にいる 武州 南山
いなびかり風白ゆかんれる月 上州 [illegible]
ゆくらくの花ばたけ滝月 秋光
[illegible]の月五月雨ふる [illegible]
八月七日おろかなる水に [illegible]

おろかなる月四月[illegible]の白山
いくつの中の瞳 洛香 [illegible]
世の中の水おろかなる [illegible] 信房 [illegible]
おろかなる夜の月 [illegible] 秋文 [illegible]
[illegible] 古柳 [illegible]
おろかなる夜の月 [illegible] [illegible]
[illegible]十日 おろかなる夜豆腐 [illegible] 柳枝

陽光

[illegible] 二荘 [illegible]

[illegible] 大坂 [illegible]

[illegible] 播磨 [illegible]

[illegible] 日 [illegible]

[illegible] 二条松 [illegible]

[illegible]

[illegible] 加前 [illegible]

上巳 桃

[illegible] 上巳 雨塘

[illegible] 冥

[illegible] 相別 [illegible]

[illegible] 信勿 [illegible] 芳洲

[illegible]行と合せ[illegible]三日の花　[illegible]
[illegible]桃さく下[illegible]　一水（[illegible]下）
[illegible]向り山桃さく[illegible]の日　[illegible]（須かい）
向桃や[illegible]麗の邪れ皆作[illegible]　白英（玉井）

春水

[illegible]れ瀬を[illegible]今宵[illegible]の水　[illegible]（大津）
[illegible]　[illegible]（京）
[illegible]春の[illegible]　[illegible]

桜

[illegible]桜や[illegible]の水　秩父　芝生
[illegible]　[illegible]
[illegible]土[illegible]白[illegible]の水（白川）　保明

桜

[illegible]桜[illegible]桜　丈左
[illegible]桜[illegible]（京）　[illegible]行
[illegible]桜[illegible]　[illegible]士

[illegible]　子容
桜花の[illegible]　[illegible]香　[illegible]
[illegible]　梅園
桜花と人と[illegible]　[illegible]多　[illegible]六
山畑の芋掘るとて[illegible]　桂立
[illegible]　八王子　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]京
世の中を思ふ桜[illegible]　恒花

[illegible]　小田後ノ　[illegible]山
[illegible]人の[illegible]桜ちる日哉　[illegible]戒　風花
[illegible]　[illegible]かけ　桃祖
[illegible]　京都　[illegible]
[illegible]雨[illegible]　[illegible]松　[illegible]東
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

麥風のなをまして嬉しき程　如式

花

俤のうき清れたるよ花の雨　長頭丸
花の香をとるも似合人は誰　秀角
あちら皆の子もし花見れ都かな　元非
散るはたゞ多く残るも間かな　吉勝
いすれ眺めあかれきるやもなつかし　秋丈

よしあしを振て声ちる花の中　宗春
ほとゝぎす鯛の眼から花の雲　宣之
蜂が隠ると北よ花の陰　忠之
行ゆきて花と柳あふ雲の隣　米芾
花の朝三世の山人まかり利　吾丈
めくるやかもいまれ花の降　玄見
うつくしや花よりこゝろとつきそき　秋父 師文
出雲の花よ教化のあとかたゝ、　某言

新古今也 花の色今は捉えて
かくるの色にしの夜のかくれ 長家 岳雅
花をこそ折るとは山家の春 少海
前代に汲こそ花の流れ哉 大魚
花山に飛ぶ鳥の夜の心 上元 法化
花あるあり松風を遠に 橘則 雲峯
雲の色の花の上かな 吉平 馮月
くれかくれ花の遠きかな 太義

花の色小門にあり小新樹 法香 法水
花の雪小門にあり小新樹 家像
新古也 花の雪小門にあり小新樹 上元 文立
雨山や花の雲に隠れ 摩呼世 芝龍
ひとくれの花の雲に隠れ 東義 胡準
ちるや花の雲に隠れ 似水
奥山や花の雲に隠れ 小野石 左貞
花の雪小門にあり日の暮れ 特向

朝から子の額よ日入まで見ゆかし　乙因

己伏のまつかくいり庵の花ゝ　去郷

蒜きざむいまゝ法煩ふかな　京松　野菜

花かるく二郎三左右衛門が店らん　寅也

ちる花もよむ心や思ふ衣裳かな　いの

誂里の娘入りし茶のこけ　岱

花見れ宿をかさなる何と申此　素葉

雑

くらやみほすかる山積涼しさか　松居

五十から桃の花見に嫁どりかな　玉枝

白きとや老て始めて見る　立帆

藤の見くは足下見て開かな　百立

嫁しひら庭屋の住まう鮭　東郷　文陽

千代もしらす行かん仲組主夫婦　三京松　貞芸

拾樹上より長こさ水の行方郡　五都　蔭衣
字ら」の松いくりの長さ九　信州　伊生
五こしとゝゝゝゝ世ゝゝゝ靴のまの式　秋芙
長さゝゝゝ敵ゝ敵ゝ敵ゝ松むゝ　五信
味ゝ弱ゝ字ゝゝ書ゝ重ゝ　伊生
まれゝ式酢ゝ長ゝ長ゝ長ゝ　京　秋芙
ゝゝゝゝ長ゝ色ゝ字ゝ長ゝ新ゝ　五信
大原の住職法師の宵　伊生

旅上きの句

蔭上きの句

蔭衣のこ庵に物ゝ書ゝ式　突こ
ゝ川ゝ上ゝの松ゝ川ゝゝゝ松ゝ　伊内　八重
ゝゝゝゝ家ゝ立ゝゝゝ」　横田川　ゝ重
ゝ」ゝゝゝゝゝ式　冨式
世ゝ横ゝ行ゝゝの」ゝ山ゝゝ小ゝゝ水　加賀
ゝゝゝゝゝゝ横ゝゝ参ゝ逢ゝ行ゝ　逢元
海苔のゝゝゝ古ゝゝゝゝ雨二日　上州　双鯉

打やくれぬるのうちなる孫乃坂　伊豫　博光

[illegible]　丸鳥

[illegible]　英嶺

[illegible]　小西御　[illegible]

[illegible]　大坂　大江花

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　京　月出
川[illegible]　[illegible]　猿輪
[illegible]　小西郎　茅月
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　大坂　[illegible]

[illegible]　二扇

[illegible]　冥や

[illegible]　冥し

[illegible]　頃金　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　かかる　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏之部

更衣

[illegible]　東部　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

市穀

[illegible]
日の方[illegible]西[illegible]
野れ水や和[illegible]
信[illegible]苔の[illegible]
篠の[illegible]
信[illegible]

[illegible]
西行
馬冬
柳枝
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]　中宿

水鶏　刻葦形

[illegible]子

[illegible]　晋

[illegible]　徐史

秋[illegible]十[illegible]　麦二

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　

梅雨の名ゆゑにかまたもしら　武州　双鳥

夏月　短夜　寄て恋花

世を捨て捨てやすらふ夏の月
松の月夏をかこつる花
三百月ふるみ一夜の短夜
一雫丙ようけん松の月
落るものはたちおそしと水の月

いつもの月結ばなるまいの月　太尼
鹿の居ぬ一つ夜の月かたぶく　長髪
情とはなけれ入し笠もなし秋の月　冥
ミしの秋やおとろふる人のまち　丈来
短夜の居れば月ふ和漢の那　子容
まつ起の鶏り鶏拙恵の今宵　梅子
夕のほゝ秋毎ゝ飛ちつむ　侍　吉之
夕風ふ夜とゝ住ゝ住ゝ　松岡
ゆ月の出ゝ月ゝ入ゝ　和字

久方の雨の降る日や古郷の　雄雨
山静の花のうつろふ春の雨　行房
初夏　宗長発句
ほとゝぎす鳴の声の聞しより　杜文
風炉の火に時鳥入る煙哉　桂陰
雨ふるとゝ初鰹　泉之
山陰や初月出かゝる田小屋　乙由
菊者

きゝ伝へしことのはなれば　宗秀
きゝ伝へ聞伝へたる海士の家　之宗
咲出るのゝ草の新芽哉　遊月
むつまじき夜の蛍哉　李白
蛍をたゝくゝ蛍の安もとれば　橘長
蛍火を指把の安もとれば　素俊
酢賣よ酢洗ふ水に蛍哉　百子
鮎とらや宵の長の宵の内　宗左

[illegible]

[illegible]

蚊　蚊帳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

題 栗 羅漢迦葉

[illegible]

上毛 文秀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

端午　六月雨

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

百合　菱　茗荷花　藪蘭

[illegible]　武品　[illegible]細

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　京　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

涼

描のうれゆ着かまつる涼の那　古来
かくてうつ涼ゆやとれうつる雪　大江丸
限りしまつゆの用うみ　千那
眉角うもすとうたつる至うみ　秋夫
涼ゆ水みるのむとれ　士人
夏也

たうさう涼もすまるゆ其式　素堂
すゆゆ紙とつるうる梅雪　春彩
涼ゆ紙うるる涼ゆ苗　尊三
すゆゆ二人ゆ様とれる　六一
接橋のゆ川いすやく涼ゆ　素朴
涼ゆ人ま涼無苔ゆ宮　井田
すゆゆやまやうるうるの上　魚笑
人のれゆうるうるすうゆ　子容

[illegible]

[illegible]　　葉氣

[illegible]　　衆極

叔人のうつる秋の[illegible]　　田村氏　百樹

同じくは[illegible]　　五秀

[illegible]　　九雪

[illegible]　　梅子

[illegible]　　汁生

[illegible]

六月　[illegible]　　馬全

六月　[illegible]　　九貞

六月　[illegible]　　芝圭

倣新子[illegible]

[illegible]　　冥

惟子　閑扇

[illegible]　　夜柴

惟[illegible]高尾の[illegible]　[illegible]　伊勢　[illegible]

後[illegible]　[illegible]　伊勢　貞徳

惟[illegible]の神[illegible]　[illegible]　八王子　[illegible]

及[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

山[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　伊勢　[illegible]

橋　百日紅　曼珠

か[illegible]人[illegible]夜の橋[illegible]　[illegible]

橋の[illegible]孤[illegible]人　[illegible]

百日紅[illegible]　伊勢　[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夕風に夏のさびしさ猿中庵　信州

苔の花ちるとも知らぬ夜寒哉　寒菊

初芋掘のまこもの花の月　尾花

紫ふる穂と用ひつるかな　芋

夜風ふくやもしの藜荻むら　市房

蘭塔に年をかさねし蕎の秋　南備

蕎の秋ひとつ庵に残れる　義仙

水仙の葉の折れまがりたる　拝句

之の市にまじる猫中ぐらしも気之　冥

御物ぶらの秋の句

七草や夏の家ゆく何蘇南　冥色

蜻蛉やもとの家ゆく蘇知　房秀

ちりぬるや夏草の中の郡　海狐

ちりつもる夏の家の中　碧梧

蚊もなく蚊やいとのびる屯　宗梦

夕蝉の日和ふる雨の月　言水

うつぼや蟲のうこと[illegible]羽
いの学問文[illegible]と照[illegible]
玉蛙[illegible]めなし[illegible]
ちろかなる蛙のかこ[illegible]
[illegible]つもの宮[illegible]
叶[illegible]合[illegible]
門柱の[illegible]
夏[illegible]

光[illegible]
扇技
小山
大[illegible]
文[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

武尓
黄[illegible]
[illegible]
[illegible]

翠中に世界を忘れ
さとりなき世界に生れ
下国や多賀城の蛇の衣
松ちるや田植の国を湖の岸
みくれのつとに流れ水すむ
今の子やふ帆ぬきやれ墨
眼のくれ玉虫やむ南部
さこと世界に住ぬ長崎花

星布
蘭十
郎上
柳下
月圓
寺春
秋光
道花

世界の色こそかなしけれ
分別花や目の多庚あくまめく
蕨の芽一寸て魚の骨ひらく
薄茶に氣に求ひ古硯
いつ陸も癒を直に出史鏡の汗
物言ふ人の石やハ童もら

曹石
泉水
麦隊
移志
不言
狐田
亨徹

釣ふ仲仕に手ふる茶ゝ

越人

昭和學會圖書
第626
明36.3.14 受入

天四八四

俳諧のたゝかひも苦手なれば
うゝみをも菅の笠とも思ふ哉　支考

作稜

苔のおれたるも佳稜の高き哉　尾花沢
人さゝぬ秋風さらぬ山門　風流
つゝ雪ゝ戻るやか義の外稜　蓑笠
いさゝか縄さゝぬ春門社　玄仙